

北九州憲法ネットニュース

発行 九条の会・北九州憲法ネット 2007年10月31日 第26号
Tel & fax 591-5522
803-0817 北九州市小倉北区田町13番21号田町ビル3F
E-mail⇒mail@kitaq-kenpou.net URL⇒http://kitaq-kenpou.net/

第9条
戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認
日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない

第5回9条の会北九州交流会に参加を!

参院選の結果、国民世論が政治を動かす新しい情勢となりました。改憲勢力のスケジュールも狂い始めています。

この事態のもとで、運動の交流をしっかりとって草の根の憲法改悪反対の世論を一層大きくしましょう。

九条の会・北九州憲法ネットは、第5回「9条の会北九州交流会」を以下のように開催します。沢山の皆さんのご参加をお待ちしています。

11月4日(日)13時30分～ 小倉北区生涯学習総合センター1階A・B会議室

◎ 京築9条の会役員の宮村みつおさんのお話

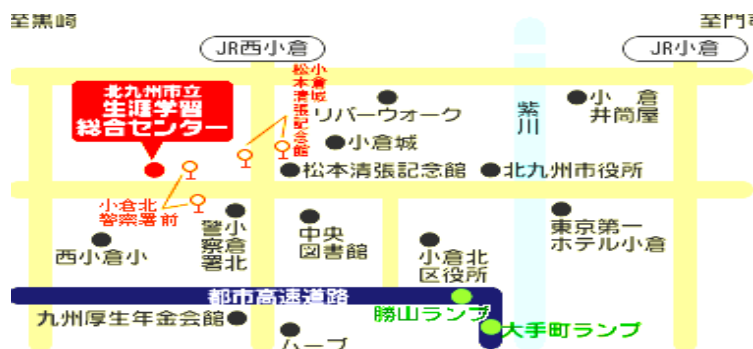
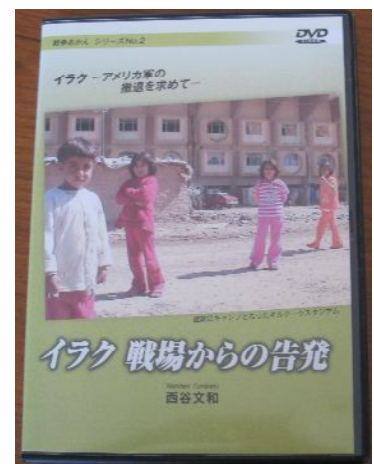
「平和憲法9条を守る事、それを子どもたちにバトンタッチさせたい! その想いを、周りの人達に熱く語りかけてきましたそんな事を皆様に話したいです。宮村みつお」



ホームページ「シーサー館」から三線を奏でる宮村みつおさん

宮村みつおさんのプロフィール
1951年行橋市生まれ。京築九条の会役員
シーサー館館主・北九州泡盛を楽しむ会事務局長
那覇市観光大使・琉球アーティスト(元九州工業高校教員)
Tel/ファックス 0930-30-3743

- ◎ **ビデオ「イラク 戦場からの告発」**
(イラクの子どもたちを救う会の西谷文和さんが作成したビデオ)
- ◎ **各9条の会からの報告と交流**
- ◎ **九条の会・北九州憲法ネットからの提案**



「キリスト者・九条の会」が誕生しました!

5月21日に「キリスト者・九条の会」が誕生しています。3月に上西創造氏(日本キリスト協会小倉協会長老で、九条の会・北九州憲法ネット代表世話人)岡昭雄氏(日本基督教団北九州復興教会員)、小林省三氏(在日大韓基督教会執事)の3名の設立発起人の呼びかけが行われ、5月に結成されました。

会の運営要綱によると、「目的」は「キリスト者としての立場から、日本国憲法の主権在民・戦争放棄・人権尊重の精神を広め、日本と、世界の平和の実現に寄与する」と規定しています。既に会報は2号を出し、キリスト教関係者への九条の会への参加を目指して、活動が進められています。連絡先:小倉南区東貫1-5-14 白萩学園内「キリスト者・九条の会」(小林さん)

北九州市役所女性九条の会が発足

10月19日、戸畑生涯学習センターで、「北九州市役所女性九条の会」発会総会が約60名の参加で盛大に行われました。2006年に発会の呼びかけが行われその後、憲法学習会などを開きながら、結成の準備が行われてきました。会員の対象を市役所と関連の職場の女性勤務員及び退職者としています。この日は、役員と今後の活動を決めました。代表世話人に前田由美子氏、事務局長に真島裕子氏、事務局次長に堀田満州子氏が決まりました。当面、6・9行動、新春の集い、ニュース発行を行います。創造的に、楽しく行動するスタイルを追求すると役員は述べていました。今後の活躍が期待されます。引き続き、植木淳氏(北九州市立大学)が憲法をめぐる情勢論を中心に記念講演を行いました。



発会総会で挨拶する三輪俊和代表世話人

西区業者九条の会が憲法学習会



今回はDVD「わたしたちの日本国憲法」で戦争の放棄、そもそも憲法9条とは何か。という学習をしました。(略)日本が今平和なのは憲法9条があるからです。世界遺産にしたいという国があるほどの日本の宝です。もし9条がなくなればどうなるか…?あなたの配偶者は?子どもは?孫は?友達は?そしてあなた自身は…?平和憲法9条があるから60年もの間戦争がなかったという真実を今、伝えるべきです。それにはまず、日本の歴史を学び、今の憲法がどのようにして生まれたのかを学ぶ必要があります。今、私たちは

スタートラインに立っているのです。大いに学んで次の世代に語り継ぎ、今の戦争のない日本を恒久なものとしましょう。

殺伐とした事件や年金、税金、医療費、保険料、クレサラ被害、官僚達の「政治とカネ」の問題…怒りが湧く問題が山濟みの時勢ですが、平和が危険にさらされていることも忘れてはなりません。他の問題にみんなが目を向けている隙をねらって憲法を捻じ曲げ、戦争できる国づくりをすすめています。

平和でこそ商売繁盛。戦争でもっとも被害をうけるのは業者のみなさんではないでしょうか？多種多様の商売のみなさんが集まれば、多種多様の知恵と力が発揮できることとおもいます。今こそ業者の力をあわせて平和を守りましょう！（文責 事務局岩坪）

曾根九条の会が下曾根駅で宣伝行動

「憲法九条、今こそ旬」の横断幕を掲げ、「憲法九条を守ろう、九条の会」と書いたのぼり旗を5本立てて、ハンドマイクも使ってJR下曾根駅で宣伝行動をしました。

通勤・通学中の人たちがピラを受け取りっていきます。高校生も受け取って読んでいました。曾根九条の会は11月に結成一周年を迎えるので記念講演会を計画しています。

元横綱大鵬が講演

———経営者九条の会準備会———

「経営者九条の会」準備会は10月15日、第48代横綱大鵬で相撲博物館館長の納谷幸喜(なやこうき)さんの講演会を東京で開いた。約250人が参加した。これまで中部や東京などで経営者九条の会が結成され、同準備会は全国的な組織の発足をめざしている。

講演した納谷さんは自らの相撲人生を振り返りながら、「相手に勝つ前に己に勝て」「人間として堂々と勝たなければならない」などの信

念を語った。

参加者から平和への思いについて聞かれた納谷さんは、日本が戦後、平和を維持してきたことにふれ、「今、国際社会は北朝鮮などの行動を阻止するためにいろいろやっているが、日本が事実を知らないで(同調し)『反対』とばかり言っていると、大変なことになる」とも述べた。「連合通信・隔日版」

小倉憲法ネットが恒例の宣伝行動

10月14日(日)小倉憲法ネットは、毎月1回の恒例の宣伝署名行動を小倉駅前で行いました。参加者は10名。1時間で署名が 筆集まりました。



かんぱのお願い

「九条の会・北九州憲法ネット」は会費をとらず、皆さんからのカンパのみで運営しています。毎月一回「北九州憲法ニュース」を発行し、また時々の憲法講演会の案内チラシを作成していますが、ニュース、チラシ等の印刷費や郵送料の捻出に四苦八苦しています。皆様からのカンパを是非お願い致します。カンパにご協力いただける方は下記の郵便振替口座までお願い致します。

振替番号 : 01700-8-115768 名義 : 「九条の会・北九州憲法ネット」

カンパ、メッセージありがとうございました。引き続き皆様のご支援をお願いします。

カンパ 8月 桑田節治 **カンパ 9月** 丹下徹 渡辺末子 有馬真弓 末安良光 小泉孝 勝元紀 木村玲子 原野礼子 松涛秀道 古賀三千人 廣津輝男 美濃部勝 水上平吉 河野よう子 三輪俊和 三輪幸子 末次美智 谷口義光 谷口靖子 銭谷十九雄 野瀬秀洋 MAYA 森田清美 樋口コスエ 青木正和 島内弥七 網中由布子 玉井史太郎 高智彦 酒見辰正 小野恂一郎 小野文子 尾崎英弥 佐多道人 村上憲子 内村敏男 稲津征雄 石橋眞智子 小沢和秋 森田禮三 勝木多美 黒坂佳男 桜河内正明 嶋国勝 江藤恭子 **カンパ 10月** 牟田陽雄 丹下徹 野瀬秀洋 和田妙慧香

メッセージ 早速ニュース郵送ありがとうございます。さて、記事の中で「永六助」さんの名前がありましたが「助」の字が違います。人の名前ですので仮に原稿がそうであっても編集部の責任で訂正してあげたがよいと思います。8/29 K.S ★わずかなカンパですが応援しています!! 9/6 A.M ★皆様毎日おつかれさまです。九条を守るネットワーク広げたいとおもいます。9/6 S.Y ★僅かですがカンパです。憲法ネットの仕事、ご苦労様です。私も高齢化のため限られた範囲でしか活動に参加できません。悪しからずご寛容ください。9/7 K.M ★参議院選挙の結果は、改憲勢力のスケジュールを大幅に狂わせました。おそらく参議院の「憲法審査会委員長」は、民主党が座るでしょう。付帯決議の18項目を実現させるチャンスです。「九条の会」の番です。お互い一層の奮闘をしましょう。9/15 S.K ★小さな学習会を沢山やりましょう。9/13 S.T ★安部の突然の逃亡で情勢は大きく変わりました。改憲阻止、断念に追い込む決意で引き続き頑張りましょう。9/21 O.K

(護憲コラム) 芋の弦(つる)

家の敷地に植えていたさつま芋を掘り起こした。かなりの大きさになっていて、通りがかりの町内の人たちも感心していた。掘った後の、芋の弦の処理が一仕事ある▼先日の「戦争展」での元兵士の「語り部」は、芋の弦こそ、戦地での、“飢えの地獄”の中では大のご馳走だったと話す。兵士は、食料なしでジャングルを彷徨する。食べれるものは何でも口に入れる。それでも蜘蛛の卵だけ喉に引っかかって食べきらなかったそうである。ジャングルの中で、多くの兵士が命を落として行く。死ぬ間際の言葉は「お母さん!」だ。「天皇陛下万歳」などという兵士はいなかった。「お父さん」というのも無かったようだ。別の「語り部」もフィリッピン島の島の中を死の行軍をした一人。米軍や現地人の襲撃を避けて、ジャングルを逃げて集合地点までいく。ここでも途中で多くの兵士が死んでいった。出発地から一ヶ月半かかってたどり着いたが、そこには、米軍が先に来ていて、日本の兵士たちは捕虜となった。そして、米軍の舟艇で川を下り、元の地点に連れて行かれる。その所用時間はわずか一日。一ヶ月半かかった行程を一日で帰って行く。隣にいた日本軍の将校は「この戦争は、大人とこどもの戦争だったな」とつぶやいたそうだ▼おおくの人命を犠牲にした第2次世界大戦、その戦争責任が問われぬまま、日本の政治は続いてきた。戦争の悲惨さを後世に伝え、戦争を起こさない、許さない土壌をつくるのが、犠牲になった人々への、今生きている私たちの責務なのだ。芋の弦を見ながら、その想いを強く持った。(盾)